

取組・活動名		委員会活動を通して、オリンピックへの関心を高める取組				
校種・学年		小学校・第5・6学年			教科等	委員会活動
カテゴリー	歴史・意義	アスリート	多様性	日本人	時間・学期等	1～3学期 (委員会活動時)
	国際感覚	ボランティア	伝統・文化	(その他)	準備等	委員会ごとに必要なものを準備
プログラムのねらい						
<p>○オリンピック、パラリンピックの話題を提示することにより、児童や教職員、学校を訪れた保護者や地域の方々のオリンピック、パラリンピックへの関心を高める。</p> <p>○本校の卒業生である瀬戸大也選手を紹介することで、身近な先輩がオリンピックに向けて頑張る様子を知った児童が、主体的に応援できるようにする。</p>						
児童・生徒の実態						
<p>昨年度、ラグビーコーナーやオリンピック・パラリンピックコーナーの設置、オリンピックキャラクターの投票等を通して、児童の興味や関心を高めた。しかし、教師が中心となって進めたので、継続性や児童の自主的な取組に課題があった。</p> <p>現在、本校の卒業生である瀬戸大也選手が水泳競技で活躍している。児童も瀬戸選手ことは意識している。オリンピックに向け、児童が主体的にオリンピックやパラリンピックに関心を持ち、学校全体で先輩である瀬戸選手を応援できるようにしたい。</p>						
プログラムと既存の学習との関わり						
<p>オリンピックやパラリンピックについては、様々なカテゴリーで取り組むことが可能である。委員会活動は、5・6年生の児童が行っている活動であるが、従前の活動内容に加え、オリンピックやパラリンピックの内容を加えることで、児童が自主的に調べたり、活動内容を工夫したりすることができる。</p>						
指導計画・評価計画						
【指導計画】						
<ol style="list-style-type: none"> 1学期にオリンピック・パラリンピックのアンバサダーとして、できることを各委員会で話し合い、年間の予定の中に組み込んでいく。 各委員会の取組内容を確認し、アンバサダー年間スケジュールを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> 代表委員会：瀬戸大也選手との交流会に向けて代表委員が中心となり準備をする。 運動委員会：オリンピック・パラリンピックのアスリート記録実感コーナーを作る。 環境委員会：オリパラコーナー、瀬戸大也選手応援コーナーを作成する。 放送委員会：昼の放送に月2回オリンピック・パラリンピックの内容を放送する。 給食委員会：関連国の料理を調べ、栄養教諭を通じ給食センターにリクエストする。 図書委員会：オリンピックやパラリンピック、スポーツに関するコーナーを作る。 						
【評価計画】						
<p>各学期末の委員会で取組や進捗状況を確認し、更新したり、新しいアイデアを次の学期に取り入れ、3学期の委員会で各取組の自己評価を行ったりする。</p>						

年間の指導

(1) 目標

- オリンピック・パラリンピックのアンバサダーとして、泉野小の児童に、もっとオリンピックのことを知ってもらう。
- 本校の卒業生である瀬戸大也選手を全校児童で応援する。

(2) 展開

- 1、2学期 委員会ごとにアンバサダースケジュールに沿って活動を行う。

【環境委員会の取組】



瀬戸大也先輩応援コーナー

【放送委員会の取組】



月2回のオリパラ放送

【運動委員会の取組】



体育館の記録実感コーナー

○3学期

「瀬戸大也選手との交流会」 司会 代表委員児童

- ① 瀬戸大也選手入場（4年生児童による花のアーチ）
 - ② 学校長挨拶及び瀬戸選手の紹介
 - ③ 瀬戸選手のお話
 - ④ 質問コーナー（各学年の代表児童が事前に用意した質問をする。壇上でのマイクの移動や児童引率は代表委員が行う）
 - ⑤ お礼の言葉 6年生の児童代表
 - ⑥ 瀬戸選手へのエール 運動会応援団長と全校児童によるエール
 - ⑦ 校歌斉唱（瀬戸選手と一緒に校歌を歌う）
 - ⑧ 記念写真（全校児童と一緒に記念写真撮影）
 - ⑨ 瀬戸選手退場（4年生児童による花のアーチ）
 - ⑩ 6年生児童との給食交流会
 - ⑪ 瀬戸選手の見送り（4・5年生児童）
- ※ 事後、児童が瀬戸選手にお礼の手紙を書く。



成果

○各委員会の児童が主体的に情報を発信することで、子供の目線での興味や関心を高めることができた。その影響で「クラスオリンピック大会」を企画する学年が増え、オリンピックへの関心が高まった。

おすすめポイント

○児童が主体的に情報を発信し、学校や家庭への関心を広げることができる。

“次代に語り継ぐ”ポイント

○児童が主体的にオリンピック・パラリンピックを応援する気持ちを育てる。